

平成25年度

事業報告書

公益財団法人新潟県都市緑花センター

目 次

1 公益目的事業

(1) 都市空間における緑化増進事業（普及啓発、調査研究）

(2) 公園緑地の利活用促進と植物に関する知識の普及と理解の増進事業

① 鳥屋野潟公園（新潟県スポーツ公園）、大潟水と森公園の利活用の促進事業

② 植物園における植物に関する知識の普及と理解の増進事業

2 収益等事業

(1) 公園施設等付帯収益事業

(2) 野球場施設付帯収益事業

(3) 書籍の販売、発行

(4) スタジアム・野球場施設貸出事業

1 公益目的事業

(1) 都市空間における緑化増進事業（普及啓発、調査研究）

緑や花に関する普及啓発活動、調査研究事業を行うことで都市空間に潤いをもたらす緑の重要性を県民に認識してもらい、緑豊かな町づくりを進めていくことを目的とする。

① 都市緑花の普及啓発事業

(ア) 県民の緑化活動支援事業

(a) 花と緑のパートナーづくり事業

子どもたちや地域住民が行う緑化事業を支援することによって都市緑化の意識啓発及び公共施設等の緑化を促進するため、都市部や主要な観光地の県管理施設や市町村管理の小中学校におけるボランティア団体、民間団体や学校等が実施する緑化活動に対して助成を行った。

- ・平成25年度助成団体； 6団体 助成額；1,990千円
(樹木344本、宿根草等22,670株)

(b) 花と緑のアドバイザー派遣事業

花と緑のアドバイザーを各種開催団体が実施する緑化講演会、緑化学習会等に派遣するとともに、センターが企画する自然観察会等においても積極的に活用を図った。

- ・平成25年度 派遣団体；27件 金額；157千円
内センターにおける活用等；15件
その他講師紹介；1団体 1件

(イ) 緑化の普及に関するコンテスト実施事業

(a) 写真コンテスト開催事業

新潟県内の国営、県立都市公園の魅力的な風景、まちなかの緑や花を題材とした写真を広く募集し、公園に対する愛着や親しみ、まちなかの緑に対して意識してもらい、公園利用の促進や緑化の普及啓発に寄与することを目的にコンテストを開催した。また、25年度においては、受賞作品は、新潟県立植物園、フラワーウェーブ会場（新潟ふるさと村）に展示した。4月以降も新潟県スポーツ公園、紫雲の郷、県庁ギャラリー等において展示期間を設け、巡回展示をしている。

- ・募集期間；平成25年12月2日～平成26年1月31日
- ・応募総数；190点（都市公園部門78点、まちなかの緑花部門74点、
モバイル・デジタル部門38点）

(ウ) 広報事業

公益財団法人の移行に伴い、ホームページを新たにし、県内各地で行われる花や緑

に関する催し物の情報を随時載せたほか、新潟県内の天然記念物の記事を載せるなど、情報の充実を図った。

新潟県農業大学校の授業や新潟県職員研修の場において、まちなかや公園の花・緑に関する講義を行い、将来の専門家、現在の技術者へ緑花の啓発を行った。

(エ) 緑化イベントの開催業務

第26回新潟県都市緑花フェアを開催したほか、フラワーウェーブ新潟2014実行委員会および「にいがた花三昧。」連絡協議会に参画し、花卉産業関係者交流会の開催、花三昧スタンプラリーの実施、寄せ植え教室の開催などを行った。

② 調査研究事業

(ア) 都市空間における緑の量と質に関する調査研究

新潟県から街路樹についての資料を提供していただくと共に、新潟市の県道を中心に、街路樹の樹種、本数の調査を実施した。

③ 芝生研究所

(ア) 芝生地に関する調査研究

ノシバやコウライシバの生長がはじまらない4、5月と、生長が止まる11月頃のスポーツターフにおける芝の損傷が激しいため、鳥屋野潟公園新潟県スポーツ公園の多目的運動広場において、4、5月及び11月における芝の状況の改善を図り利用者の利便性の向上を図るため、冬芝オーバーシーディングを行い、その後の経過を調査した。

(イ) 校庭芝生化の普及事業

新潟市で平成25年度に芝生化された赤塚小学校の植栽時に立ち会ったほか、これまで校庭の芝生化された小学校へ定期的に芝の生育状況を調査した。また、静岡県芝草研究所の所長、研究主幹と芝生化された小学校の視察と意見交換を行った。保育園、幼稚園において、園庭芝生化のモデル園を募集し、新潟市内の5園に試験施工植栽を実施し、芝の生育状況を調査した。

園名	芝生化面積	植栽日
第二はじめ保育園	200 m ²	平成25年7月9日
松の実第二保育園	300 m ²	平成25年7月11日
笹口保育園	75 m ²	平成25年7月17日
あおい幼稚園	300 m ²	平成25年8月1日
はじめ保育園 (ひまわりホール)	500 m ²	平成25年8月6日
合計	1,375 m ²	

(2) 公園緑地の利活用促進と植物に関する知識の普及と理解の増進事業

より多くの人が満足できる適切な公園管理を企画・実施するとともにアンケート調査等を通して、利用者ニーズを把握し、より一層県民に親しまれる公園となるよう、行政と利用者をつなぐ役割を担うことを目的とする。

① 鳥屋野潟公園（新潟県スポーツ公園）、大潟水と森公園の利活用の促進事業

(ア) 各種イベント等の開催

県民に愛される公園を目指し、多くの方に公園に来て楽しんでもらう事を目的とし、季節ごとにイベント等を開催し、地域の活性化や公園の魅力の発信を行った。

【鳥屋野潟公園】

6月2日	芝生を思いきり楽しもう	556人
8月11日	スタジアムから花火を見よう	700人
9月16日	鳥屋野潟スポーツ公園フェスタ2013	4,000人
11月9日	東北電力スタジアムオータムフェスタ2013	1,000人
1月13日	デンカビッグスワンスタジアム新春フェスタ2014	12,000人

【大潟水と森公園】

4月21日	さくらまつり
5月5日	こどもの日お楽しみ会
6月2日	大潟かっぱ祭り協賛イベント
10月13日	3しょくフェスタ

(イ) スポーツを通じた公園の利活用促進業務

競技者の技能向上の機会を提供するとともに、スポーツ競技の普及を図ることにより県民の余暇活用の支援と健康増進に寄与することを目的とし、各種講習会、スポーツ教室を開催した。

【鳥屋野潟公園】

スポーツ公園でエクササイズ	17回
ノルディックウォーク教室	7回
歩こう走ろう教室	10回
野球教室	72回

(ウ) 公園を活用した教室、観察会の開催

鳥屋野潟公園では「鳥屋野潟」、大潟水と森公園では潟周辺の豊かな自然、植物に触れ、学ぶ機会をつくるため、また、公園が交流の場となるように各種教室を開催した。

【鳥屋野潟公園】

各種教室開催 53回

主な教室

野鳥観察会 3回、鳥屋野潟でネイチャーゲームを楽しもう 8回

【大潟水と森公園】

・よろず塾 49回

健康づくり教室、園内の植物調査、絵本読み聞かせ など

・潟来さんぽ 24回

園内の自然観察会 など

(エ) 公園を活用した地域コミュニティの形成

公園が地域住民や利用者同志の連携活動の場となるよう、お互いの理解を深め、協力・連携し、各種活動を行う。

【鳥屋野潟公園】

・公園サポーター活動 53回

・地域団体との連携活動 6回 ながたの森を愛する会、園芸福祉にいがた

【大潟水と森公園】

・よろず塾 49回

・潟来さんぽ 24回

(オ) 高品質なスポーツターフの提供

・Jリーグベストピッチ賞を受賞（通算4回目2年連続）

・芝生保護技術

特許の取得 「芝生保護用マットとこれを用いた保護構造」

平成25年11月8日特許庁の登録原簿登録

特許技術の活用

芝生保護用マット敷設指導等業務・・・日産スタジアム

国立競技場

(カ) 大規模施設の有効活用事業

新潟スタジアム 620, 285人

野球場 233, 795人

【主な利用】

・Jリーグ 19試合 445, 432人

・高校総体県陸上大会 8, 000人

・プロ野球公式戦 3試合 64, 687人

- 5月11日、12日 横浜VS巨人、9月10日 巨人VS横浜
- ・北信越BCリーグ 10試合 19,661人
- ・高校野球 52,487人
- ・スポーツ公園エンジョイラン（新規事業）
- 10月21日 6,000人 参加者 623名

② 植物園における植物に関する知識の普及と理解の増進事業

(ア) 植物園の魅力を増進させる事業

(a) 植物コレクションの充実

新潟県の園芸に縁の深い雪割草やツツジ類、日本海型植物であるユキツバキ、水生植物を中心に、日本では貴重な熱帯植物や日本の野生植物を収集した。

- ・収集植物 165種

(b) 植栽の充実

新潟の自生植物や、園芸産業を代表するツバキやユリ等を園内に植栽することで、植栽展示の充実を図った。熱帯ドーム温室では、園内に植栽される植物に近縁の熱帯植物の植栽を行う。また、装飾効果の高い草花を植栽することで、観賞を楽しんでもらうだけでなく、これらを保全、研究材料として利用し、新潟県の財産として保存を行った。

(イ) 植物に関する普及啓発事業

(a) 温室内展示の充実

観賞第2温室の企画展示

期間	企画展名
(3月6日)～4月7日	チューリップ展
4月10日～5月26日	シャクナゲ・ツツジ展(1部、2部)
5月29日～7月15日	絶滅危惧植物展
7月18日～9月1日	食虫植物とおもしろ植物展
9月5日～11月17日	紅茶展
11月20日～12月26日	クリスマス展
1月4日～2月16日	江戸の園芸展～個展園芸植物の世界～
2月18日～3月31日	にいがたの花展

(b) 花と緑の教室開催事業

花と緑の教室 46回

主な教室

- ・植物園花散歩 11回
- ・マツの剪定、食虫植物を育ててみよう、寄せ植え教室など

(c) 園芸相談受付業務

植物の育て方についての相談を受ける窓口として「花と緑の相談コーナー」を開設した。

- ・専任相談員による相談所の開設 103回
- ・相談件数 304件

(d) 学校教育等の支援

- ・出張講習 21回 小学校総合学習、農業大学校、中・高年大学 など
- ・博物館実習 5大学 6名
- ・インターンシップ 1大学 1名

(ウ) 貴重な植物の保全事業

(a) 県内外絶滅危惧植物の収集及び域外保全の実施

現在環境省のレッドデータブックに掲載されている植物を約120種収集し、日本植物園協会の植物多様性保全拠点園として「生息域外保全」を行っている。引き続き全国の植物園や市民団体、研究機関などと協力し、自然環境の保全に努めた。

- ・絶滅危惧植物 25種収集
- ・新潟県野生生物保護対策検討会（植物分科会）委員として、県内のレッドリストの改訂に協力

(b) 地域保全団体への協力、指導

- ・新潟大学との湿地環境再生に関する調査・研究
- ・佐潟における植生調査等の協力
- ・魚沼市自然環境保全調査員として地域の保全に協力
- ・魚沼市の植物相の解明、同市に自生する絶滅危惧種オキナグサの保全に関する調査研究

(c) 新潟県作出の園芸植物の栽培保全

花卉栽培の長い歴史を誇る新潟県で作出されたボタンやアザレアなどの絶滅危惧園芸植物を収集し、新潟の園芸文化を守る保全施設としての役割を果たしている。

- ・新潟県園芸研究センターが品種改良を行っているアザレアについて、植物園から提供した中国産ツツジを用いた交配種が初開花。
- ・日本代表するツツジ、江戸キリシマ系ツツジの起源に関する調査を島根大学と共同で実施

(エ) 植物に関する調査研究事業

(a) 新潟県の園芸史調査（チューリップ、アザレア、ボタン、ボケ）

日本一の花木産地である新潟県の江戸時代から続く花卉園芸の歴史を解明する為の調査を行った。

- ・ ツツジ等関連資料 50点 資料収集

(b) 熱帯植物生態の調査研究（ヒスイカズラ、オオオニバス）

日本に導入され、栽培されている熱帯植物の中には、生態がよく解明されておらず、栽培においても技術が確立していないものがある。調査を基に、より多くの植物で、より多く開花結実できるように栽培管理し、来園者が本物を直に観賞できる環境づくりを構築した。

(オ) 産業振興、地域振興への貢献

新潟県や新潟市、その他近隣施設、花卉に関する各種協会、団体が主催するイベントと連携することで、新潟の花卉園芸の振興へ貢献した。

- ・ 春の大ツバキ展の開催（4月5日～7日）新潟県花ツバキ協会と共催
- ・ 「にいつ花ふるフェスタ」の開催（6月2日）
- ・ 村上市荒川地区公民館へ富樫信平氏の植物画を貸出した。
- ・ 新津華道連盟創立60周年記念「いけばな展」（10月26日・27日）
- ・ 他団体による植物園展示会の審査協力

(カ) 植物に関する情報の提供

上記の活動を、温室内の展示、講演、新聞及びホームページなどを使い広く公開し、県民に植物についての情報を提供した。

- ・ 印刷物の発行
 - お散歩マップ 6回発行
 - 植物園だより 3回発行
 - 各企画展等チラシ
- ・ インターネットを活用した情報提供
 - ホームページ
 - SNSを活用した情報提供（Facebook 新規開設）
- ・ マスメディアへの広報活動

2 収益事業

(1) 公園施設等付帯収益事業

公園及び付帯する施設の利用者への利便を図ることを目的として次の事業を行った。

- ① レストラン運営
- ② 売店運営
- ③ 自動販売機運営
- ④ 公衆電話設置事業運営

(2) 野球場施設付帯収益事業

野球興業の補助を行うことで、興行主との良好な関係を築いて、継続的な興業を促進することを目的として次の事業を行った。

- ① プロ野球興業運営補助事業
チケット販売の代理店業務

(3) 書籍の販売、発行

より植物に親しんでもらうために書籍の発行を行った。

- ① 植物に関する書籍の発行・販売

(4) スタジアム・野球場施設貸出事業

- ① スタジアム・野球場会議室貸出事業

各施設の有効活用を図るため、施設内会議室の貸出を行った。

- ② スタジアム・野球場諸室貸出事業

各施設の有効活用を図るため、展示会、即売会などに施設内スペースの貸出を行った。